十人十色の、ミライを咲かせる

2020 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 英語-①

・設問数や問題の形式等に変化はないものの、英作文が易しくなり、また長文問題の文章のボリュームが減ったことにより、昨年度に比べて易しくなった。
・一方で、リスニング問題と文法問題の難易度は例年並みで、一部に厄介な問題も見られた。より基本的な力を測る方向にシフトしたと言える。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	語数が減り、昨年に比べ音声の時間がやや短くなったが、難易度は昨年と変わらない。 (ア)No.2には紛らわしいひっかけ選択肢があり、会話中の時制を聞き取れているかが分かれ目となる問題だった。(ウ)は昨年同様難しく、聞き取った情報をもとに簡単な計算をして答える必要があった。	とくに(イ)(ウ)に関しては、英文を聞き取りながら必要な情報をメモし、整理しておくことが大切。あらかじめ問いに目を通して聞くようにしよう。
問2 適語補充	例年と同様、対話文中の単語の書き取り問題。(ア)のbe afraid ofなど、熟語から出題される傾向は昨年と変わらず。(イ)はstrongの最上級strongestが答えだったが、思い付かなかった受験生も多かったのではないだろうか。	熟語はスペルまで含めてしっかりと覚えておくことが大切。例年、1問は綴りの難しい語が出題される。入試直前になってから覚えようとしても間に合わないので、日頃の単語学習をコツコツやっていこう。
問3 適語選択	例年通り、適する語句を選ぶ問題。難易度も例年並みだった。内容的にもこれまで通り、助動詞canと受動態の使われた(イ)、tell+人+to+Vの形を過去形で問う(ウ)など、複数の文法知識を組み合わせて答えなくてはならない問題が複数見られた。	とくに、時制や態、前置詞の用法と言った細かいところでミスを誘うような問題が目立つ。基本的な文法への理解が問われるので、日々の学習で確実に定着させよう。
問4 語順整序	例年と変わらず、語順整序問題。神奈川県のこの形式の問題は比較的難易度が高いが、今年は(ア)(エ)など、基本的な内容を問う問題が例年よりやや多かった印象。だが、前置詞+Vingの形に熟語を組み合わせた(イ)、受動態と完了形、不定詞を組み合わせた(ウ)など、複雑な文を作る問題も健在で、難易度的にはあまり変わらなかった。	例年、複雑な文が出題されがちな語順整序。重要なのは、まず基礎的な問題を落とさないこと。それぞれの文法事項を扱う際に学習する基本文の形と仕組みをしっかりと理解しよう。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	英作文の問題。what+名詞の形を使った疑問文を作る問題で、<条件>の中で与えられた単語が文の中心となるものだったこともあり、昨年度以上に易しい問題となった。ただ、listen to ～のtoを抜かしてしまうミスには注意する必要があった。	昨年度に続き、英作文問題の難易度は易化傾向にある。文法問題とも共通するが、まずは各文法事項の基本文を押さえることが大事。
大問6-8 長文	・問6 スピーチの読解問題。テーマはポリ袋の使用量を削減するために日常生活の中で何ができるか、といったことで、内容的には理解しやすい文章だった。語数も昨年より少なくなり、また複雑な文も見られなくなり、全体として易しくなった。(イ)は本文の内容に適するグラフを選ぶ問題で、新傾向の問題だったが、文に書かれた条件に従い一つひとつ選択肢を絞っていくことで答えられる、難しくはない問題だった。 ・問7 短文と資料の読解問題。問6同様、こちらも文がやや短くなっている。(ア)はスマートフォンのメッセージアプリ風の会話文と地図を読んで待ち合わせ場所を考える問題で、昨年に引き続き現代的なテーマの内容だった。買い物の合計金額を考える(イ)は、計算の必要があるものの、昨年ほど複雑な条件は与えられておらず、やや易しくなった。 ・問8 会話文の読解問題。アイデアを整理・共有し、話し合いを効率的に進める方法を学ぶ授業、という設定だった。本文の内容に適するイラストを選ぶ(イ)、本文の内容に合う選択肢を2つ選ぶ(ウ)など、本文全体を読まないと答えられない問題があったが、問6・7と同様、文章自体は短くなっており、多くの受験生が、例年に比べ余裕を持って答えることができたのではないだろうか。	長文問題全体の傾向として、設問の形式は変わらないものの、文章が短く、易しいものになった。これまでは、効率的に読み進めるための情報処理能力が問われる側面があったが、今年の入試はむしろ、丁寧に読み落としなく読んでいくことが重要となったと言える。基礎的な力を問われる傾向は今後も続くと思われるので、それを意識した学習を進めよう。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020　数学-①

・ここ数年、出題の傾向に毎年変化があったが、今年の入試は大問数が7→6へと大きく変わった。
　それに伴い、出題の順番、配点や問題の配置にも変化が見られた。
・図形や関数で難易度の高い問題が出題されたのは例年通りであった。全体の難易度は下がった印象。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	例年同じパターンの計算しか出題されなかったが、今年は(エ)と(オ)で昨年とは違う計算問題が出題された。しかし、そこまで複雑な計算ではないので、丁寧に解き正解を狙いたいところ。	出題される計算はパターンが決まっているので、早く正確に解く訓練をする。
問2 小問集合	例年では(ア)では置き換えによる因数分解が出題されていたが、その式の形で問1の(オ)の計算が出題されていた。ここでは連立方程式の計算が出され、昨年とは違う傾向となった。 (イ)(ウ)は昨年と同様、(カ)は円周角の定理を使う求角の問題であった。これは昨年の問3で出題されたものと難易度は同じくらいであった。	2次方程式や変化の割合など、毎年傾向がほとんど変わらないものは確実に解けるよう訓練する。 その他の問題も全国入試ではよく出題されるオーソドックス問題なので、様々な基礎的な問題を取り組んでいく。 角度の問題は昨年と同様、答えに至るまでに図形の性質を3つほど使う。図形の解法を多く知っておくと良い。
問3 証明とヒストグラム	証明問題は問7で出題されてきたものが、今年は問3に移動していた。内容は昨年と同様空欄に入る項目を選ぶマークシート方式であり、証明自体は難しいものではなかった。(ii)では、2018年度入試での証明問題で使った「同じ円の周上にある」という定理の逆を使う考え方を今年も使う出題であった。(イ)では条件にあうヒストグラムを選ぶ問題で、条件が多く時間のとられるものであった。 また、(ウ)は相似と三平方の定理を使い面積比を出す難易度の高いもので、(エ)は反比例の文章題が出題された。(エ)の反比例の問題は神奈川県ではあまり出題されていなかったパターンであった。	証明問題は過去問をしっかりと解き、流れを押さえておく。完全証明で出題された年の問題にも触れ、入試で使う図形の性質を理解しておく。 平面図形の問題は例年難しいものが出題されるので、自信のない受験生は飛ばすのも手である。また、今年は反比例の問題が出題され、昨年は方程式の文章題が出題された。 受験勉強は中3の内容に偏りがちだが、中2、中1の単元にも触れ、かつ過去の神奈川県入試では出題されていないものも解いてみると良い。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020　数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	例年通りの出題傾向となった。昨年よりは座標を求めるまでの計算量が減ったが、比から分数の座標を導き処理をするという点では、昨年と同じ傾向である。 (ウ)は毎年難しい問題が出題されるが、今年も同様に難度が高い。	座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。 比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。
問5 確率	ここ数年は試行のルールそのものを複雑化した問題となる傾向であったが、今年は昨年より取り組みやすい出題となった。 さいころ2つではなくカードを引くものであったが、典型的なパターンであった。	単純にパターンを数えるだけでなく、答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題を解いておくこと。 時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくと良い。
問6 空間図形	2011年度入試以来となる展開図での出題となった。 (ア)は面積を求めるものであったが、(イ)からは展開図を組み立てて見取り図を描けるかどうかがポイントとなる。 (ウ)では最短距離を求める問題であったが、例年同様難度の高い問題であった。	図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。 三平方の定理や相似は必ず使うので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 国語-①

・設問数や問題の形式等に大きな変化はない。難易度的には、昨年度よりやや易しくなった。
特に問1の漢字、問5の資料の読み取りと記述の問題で顕著に易化が見られた。
・他教科同様、特色検査問題の位置づけが変わったことによるもので、しばらくこの傾向は継続する可能性がある。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	例年通り、漢字と文法、短歌の読み取りの問題。(ア)(イ)の漢字問題は例年1～2題含まれていた漢検準2級相当の問題が無くなり、すべてが漢検3級内の問題となった。(ウ)は格助詞「が」の用法を問う問題。接続助詞の「が」を除くことで容易に2択に絞り込めるうえ、属格の「が」と欲求の対象を表す「が」とでは働きが大きく異なるため、文法知識がなくても解ける。短歌を読む(エ)の難易度は例年並み。	漢検の3級までの漢字を押さえておくことが大切。入試直前期に覚えようとしても間に合わないので、日頃からコツコツと学習を続けよう。(エ)は、擬人法や直喩といった表現技法を表す用語の意味を押さえておけば、比較的楽に解ける。
問2 古文	古文の問題。出典は17世紀に成立の仮名草子「伊曽保物語」。「祈誓」など、一部難しい語もあったが、全体として平易だった。小問の内容と形式は昨年と同様で、難易度も同程度かやや易化といったところ。ストーリーの流れを追えれば答えられる問題だった。	古文を読み慣れるのも必要だが、分からない語はどうしても出てくるもの。そうしたとき、立ち止まってしまわずに、字面や前後の文脈から意味を推測し、大まかな内容を推測できるとよい。本文の周りの注や状況説明のキャプション等も使って、理解を補う力を磨こう。
問3 物語文	小説の読解問題。出題は野中ともそ「洗濯屋三十次郎」から。各小問の選択肢は、作中で語られる出来事の事実関係を押さえておけば答えられる、比較的易しいものが多かった。だが、引用箇所では間接的にしか語られていない、主人公の家族の抱える葛藤を読み取れていないと、惑わされたかもしれない。(エ)は例外的に難しい問題で、比喩表現の意味を把握したうえで答える必要のある問題だった。	ここ数年続いていた、現代を舞台としない作品からの出題ではなかったが、主人公は最近家業を継いだ青年、視点人物はその主人公の店で長年務めてきた職人と、多くの受験生にとって、あまり身近でない大人たちの世界を描いた作品だった。いろいろなジャンルのフィクションに触れ、行間を読む想像力を養うことが大切。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 論説文	論説文の問題。中屋敷均「科学と非科学」からの出題で、原理的に、常に変化をし続ける科学のありようを、権威主義との関わりを補助線に論じたもの。各小問の選択肢は、「科学=常に不完全だが、絶え間ない修正によって少しずつ強度を増していく体系」という主題を押さえたうえで、文中で言及されていない内容を含むものを消していけば比較的容易に二択以下に絞り込めるものだったが、使われている用語の堅さで読み違えてしまう受験生も多かったのでは。 (オ)の文中からの書き抜きは、難易度自体は例年と変わらないものの、答えに含まれる「妄信的」という語の意味が把握できていないと答えられなかったかもしれない。	例年、教科書の論説文と比べるとやや難しい用語を使った、堅い文章が出題されている。神奈川県の問題だけでなく、他県の入試、私立の入試問題で論説文を読み慣れることで、少しずつ語彙を増やしていきたい。また、論説文にはテーマごとにトレンドがあって、論者が違っていても、同じ問題について語るときは、ある程度共通する語り方で文章を進めていくもの。そうしたトレンドを押さえられると、理解も深まるはず。
問5 資料の読み取り	会話文と資料の読み取りの問題。昨年は、(イ)の記述問題では資料中から必要な言葉と情報を探し出して自分の言葉にまとめ直す必要があり、(ア)の選択肢問題でも答えを出すのに計算が必要だったりと、かなり難易度の高い問題となっていたが、今年はそれに比べるとかなり易しくなった。(ア)の選択肢問題は、大まかに割合を当てはめて考えるだけで答えることができた。(イ)は、会話文中で必要な情報がかなりの程度まとめられているので、そのまま書き抜くことはできないものの、会話文をヒントにして書くことが可能だった。	表やグラフの読み取りは、すべての教科で必要とされる基本的なスキルなので、国語に限らず様々な科目の問題に触れるなかで身につけていこう。記述問題の易化傾向がどの程度続くのかは不明だが、いずれにせよ、書く必要があるのは50字前後の短文。短い言葉で必要な情報を表現できるよう、繰り返し練習することが大切。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 社会-①

・まず、大きな変化として、大問の数が増え、全7大問の構成となった。これまで、世界地理・日本地理・近代以前の歴史・近代以降の歴史・憲法と国家の仕組み・経済と国際関係それぞれに1大問ずつが割り当てられていたが、各大問内に1題ずつ程度置かれていた分野横断的な小問がなくなり、その代わり分野横断型の大問7が置かれる、という形に変化した。
・ただ、全体の問題数は変わらず、かつ、答えを導くために複数回思考する必要がある難題と言えるような問題もなくなり、易しかった昨年の問題と比べてもさらに易化した。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	北極を中心とした正距方位図と資料の組み合わせの問題で、昨年に引き続き、1種類の地図のみで作られた問題となった。小問数は3問と、かなりコンパクトに。(ア)は、正距方位図の見方に関する問題。中心点からの距離と方位を正確に表したもの=中心点以外の地点同士では正確な距離と方位を表していない、ということを理解している必要があった。(イ)は資料の読み取り。割合の考え方、グラフの特徴が理解できていれば、世界地理についての知識がなくとも答えられる易しい問題だった。(ウ)は、地図上に示された地点(サンフランシスコ)周辺の産業について答えるもの。見慣れない正距方位図で考える必要があったが、問われている事柄自体は基本的なものだった。	配点も小さくなり、相対的に世界地理の重要度が減る形となったが、この傾向が続くかどうかは分からない。ただ、複数の知識を組み合わせて考える必要のあるような問題はおそらく今後も少ない。基本的な知識を抑えること、表やグラフの正確な読み取りが大切。
問2 日本地理	世界地理同様、小問数は減って4問となり、(ウ)のように、知識がなくとも、資料の読み取りが正確にできてさえいれば答えられるような極めて簡単な問題が見られた。(ア)(イ)は知識を問うものだったが、いずれも、一問一答レベルのごく基礎的な知識を問うもので、易しかった。(エ)の地形図の読み取りは、インターネット上の観光案内図と地形図とを組み合わせて考えるというこれまでにない形での出題となった。それぞれの図で方位が異なっていることに気づく必要があり、やや厄介な問題だった。	ほとんどが基礎レベルの問題となっている。用語集や一問一答形式の練習問題を使って、基本事項のまとめをしっかり行っていれば、(エ)以外には対応できた。隙間時間などをうまく活用し、知識の見直しを徹底しよう。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020　社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 近代以前の歴史	大分県の地域史の体裁を取っているが、地理分野との横断も見られなくなり、実質的に、近代以前の歴史を大まかにさらうような内容の問題となっている。 (ア)は1世紀という単位についての基本知識の確認問題で、近年の神奈川県入試では例がないレベルの易しい問題だった。 その他もいずれも基本知識を問うもので、全体的にかなり易しい大問だった。(イ)(ウ)のように、出来事の前後関係を問う問題の出題は今年も見られた。	地理分野同様、基本的な知識を抑えられているかが重要になる。 また、出来事の前後関係を問う問題の出題が続いているので、年表を使ってどの出来事がいつ起こったのかをきちんと抑えることがまず大切。
問4 近代以降の歴史	日本と海外との関わりの歴史を整理した表を中心とした出題となっているが、昨年と比べても、中心的な出来事について問う小問が多く、より基礎知識に偏重した問題になった。 基本的には年表・一問一答をきっちりやり込むことで答えられるような易しい問題が目立ったが、(エ)(ⅱ)はグラフの読み取りに絡めて日米貿易摩擦について問うやや凝った形の小問だった。 しかし、グラフの読み取りに計算は不要であり、迷うような選択肢もなく、落ち着いて対処すればごく易しい問題だった。	問3同様、まずは年表の暗記、一問一答形式の練習での基礎知識の定着が大事で、それだけでもほとんどの問題に対処できた。 ただ、近代以前の歴史に比べ、諸外国との関わりが増えてくることで、起こる事象も複雑になってくるので、内容の正確な理解も重視しよう。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民①	例年、問5では憲法と人権、国家や地方自治体の政治の仕組みについて出題されていたが、今年度は消費生活や経済政策など、経済分野の内容も問われた。だが、いずれの小問も中身自体は基礎知識を問うもので、他分野と同様、難易度は下がっている。 (ウ)など、表を正確に読むことができれば答えるのに知識がいらない問題も見られた。 (イ)では、資料として診療費領収書が提示されているが、問われていることはごく基本的なものなので、資料を読み込まなくても答えることができた。	他分野と同じく、基本的な知識を問う傾向が強まっている。 それぞれの用語の意味をきちんと把握していくことが一番の対策となる。用語集、一問一答問題をうまく活用しよう。
問6 公民②	例年は経済、国際分野の問題が出題されていたが、問5に経済分野からの出題があったためか、今年は憲法や地方自治についての問題が出題された。だが、やはり他分野同様、全体として易しくなった。 (ウ)(ⅲ)など、資料を読み取れさえすれば知識は不要というタイプの問題はここでも見られた。 地方自治体の議会のリコールについて問う(イ)はやや細かい部分を問う問題だったが、その他に関しては、聞かれている内容は基本的なものだった。	
問7 分野横断型	今年度から追加された、地理、歴史、公民全分野に跨がる分野横断型の大問。昨年は大幅に簡単になった時差に関する問題はこの大問に移動した。 内容としても、飛行機の移動時間も考慮して計算する必要のある難易度の高いもので、今年度の社会の問題の中ではもっとも厄介な小問だった。 (エ)は記述問題。ニューディール政策の内容を押さえたうえで、その雇用促進効果を表したグラフを選ぶ必要があり、これも難しい問題だった。だが、その他の小問は易しく、基礎知識を問う問題だった。	新しい形式の大問で、戸惑った受験生も多かったかも知らないが、問われている内容自体はこれまでの神奈川県入試では類例のあるもので、極端に難しいものではなかった。 基礎知識がきちんと把握できていれば、少なくとも半分は取れる問題なので、まずは各分野の基本をしっかりと覚えること。

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020 理科-①

・数年前までは全国屈指の高難度であり、難度の高い問題が多かったが、昨年から基本問題が増えた。その傾向は今年も続き、難問は減った印象。易化傾向は続いている。
・分野別の問題の配列やそれぞれの配点など、問題構成、順番は例年通り。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	(ア)では力学的エネルギー、(イ)では電流と磁界が出題された。どちらもここ数年出題されていない単元であった。(ウ)はバネの伸びを比べる問題。例年こういった大小関係を比べる問題は難しいが、今年の問題は基本問題通りに比例式を使えば求められ、それほど難しいものではなかった。	基本的な知識を身に付けておくことは必須。 その上で、他の都道府県でもよく出題される基本問題を解き、理解を深めていくことが重要。
問2 化学小問	(ア)では力学的エネルギー、(イ)では電流と磁界が出題された。どちらもここ数年出題されていない単元であった。(ウ)はバネの伸びを比べる問題。例年こういった大小関係を比べる問題は難しいが、今年の問題は基本問題通りに比例式を使えば求められ、それほど難しいものではなかった。	
問3 生物小問	(ア)～(ウ)の3問すべて、過去に似たような問題は出題されているものであった。(ア)の遺伝子や染色体にかかわる問題は、入試で良く出題されてきたものである。	
問4 地学小問	(ア)と(イ)は天気分野からの出題。どちらもよく出題されるもので、(イ)の雲の発生の実験は過去に何度も出題をされている。(ウ)では中1の地学分野からの出題であった。プレートが動く長さから年代を計算し、その年代の特徴を選ぶ問題。今回の問題のように、地質時代で「古生代」や「中生代」という言葉で問われていないものはあまりない。	

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.

2020　理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 音の実験	弦の長さ、太さ、張る強さをそれぞれ変えながら実験を進める問題。 問5以降は大問で実験や観察をする問題が出題されるが、ほぼ音の知識だけで解き進めるパターンはこれまであまり見なかった。 今回は一部生物の知識を使ったが、例年のような一度の多くの知識を使って解くような問題ではなかった。	今年は比較的取り組みやすいものであった。 基本知識を定着させて、全国入試で代表的な実験の問題を解くことが大切である。 少しずつレベルと上げて、論理的に考えるものに触れるようにすると良い。 その後は2018年度入試より前の、平均点が低かった時期の過去問を解き応用力をつける。
問6 電気分解の実験	水溶液を電気分解し、発生する物質について問われた問題。 記述で答えるものがあったが、何が発生するか判断できた場合は答えも導きやすかった。計算で求める問題も1問あったが比例の関係を使えば解きやすく、全体的にひねった問題は少なかった。	
問7 刺激と反応の実験	実験のシチュエーションはよくあるものだが、思考力の問われる問題が目立った。 実験の中で適さない箇所を見つけたり、仮説として導ける項目を選択したりと、知識だけでは対応できない問題があった。 これまでの入試傾向に沿ったものである。	
問8 天体の観察	問8は地学分野が出題され、年ごとに中1→中2→中3の単元を順番に出題されていた。 昨年が中3の地学である太陽の観察が出題されたので、今年は中1の単元と読んでいた受験生も多かっただろう。 結果は今年も中3単元で、年周運動、月、金星と近年出題されていない単元を含めて幅広く問われた。 地球の公転に関する問題は2015年度に出題されたものとほぼ同じであった。	

Copyright © 2013-2020 さくら個別指導塾 All Rights reserved.